

CASBEE神戸ver.3

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE神戸ver.3

【使用評価ソフト: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)】

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)神戸市東灘区向洋町東3丁目	階数	地上4F
建設地	兵庫県神戸市東灘区向洋町東3丁目	構造	RC造
用途地域	準工業地域、法22条指定区域	平均居住人員	20人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,400時間/年(想定値)
建物用途	事務所・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年2月 予定	評価の実施日	2022年9月9日
敷地面積	5,000 m ²	作成者	筒井英雄
建築面積	2,551 m ²	確認日	
延床面積	10,151 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

標準計算

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.2

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 CASBEE神戸の重要項目		
バリアフリー計画 Q-2/1.1.3 バリアフリー計画 1.0	建築物の耐震性等 Q-2/2.1 耐震・免震・制震・制振 3.0 Q-2/2.4 信頼性 2.6	まちなみ・景観への配慮 Q-3/2. まちなみ・景観への配慮 3.0
配慮の概要 本案件はバリアフリー法適用外です。	配慮の概要 建築基準法に定められた耐震性を有しています。	配慮の概要 ・周囲と調和する外壁色を選定。 ・前面道路から視認できる箇所に壁面緑化を計画。
その他の配慮事項		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE神戸 ver.3
(仮称)神戸市東灘区向洋町東3丁目計画

■使用評価マニュアル: CASBEE神戸 ver.3

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト:

CASBEE神戸 ver.3/CASBEE-BD

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
		Q 建築物の環境品質						2.8	
Q1 室内環境			0.31			3.3			
1 音環境		3.2	0.15			3.2			
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.40						
1.2 遮音		3.0	0.40						
1 開口部遮音性能		3.0	0.60						
2 界壁遮音性能		3.0	0.40						
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-						
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-						
1.3 吸音	天井・壁の二箇所において、吸音材を採用	4.0	0.20						
2 温熱環境		3.2	0.35			3.2			
2.1 室温制御		3.5	0.50						
1 室温		3.0	0.38						
2 外皮性能	断熱性能の高い金属断熱サンドイッチパネルを外壁に採用	5.0	0.25						
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38						
2.2 湿度制御		3.0	0.20						
2.3 空調方式		3.0	0.30						
3 光・視環境		2.6	0.25			2.6			
3.1 屋光利用		1.8	0.30						
1 屋光率		1.0	0.60						
2 方位別開口			-						
3 屋光利用設備		3.0	0.40						
3.2 グレア対策		3.0	0.30						
1 屋光制御		3.0	1.00						
3.3 照度		3.0	0.15						
3.4 照明制御		3.0	0.25						
4 空気質環境		4.3	0.25			4.3			
4.1 発生源対策		5.0	0.50						
1 化学汚染物質	全的にF☆☆☆☆を採用	5.0	1.00						
4.2 換気		3.3	0.30						
1 換気量		3.0	0.33						
2 自然換気性能	窓が開閉可能な居室において、有効開口が室面積の1/30以上	4.0	0.33						
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33						
4.3 運用管理		4.0	0.20						
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50						
2 喫煙の制御	屋外に喫煙スペースを設けている	5.0	0.50						
Q2 サービス性能			0.30			3.2			
1 機能性		3.4	0.40			3.4			
1.1 機能性・使いやすさ		2.6	0.40						
1 広さ・収納性	1人当たりの執務スペースが約9.25㎡	4.0	0.33						
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.33						
3 バリアフリー計画		1.0	0.33						
1.2 心理性・快適性		3.3	0.30						
1 広さ感・景観	事務室の天井CH=2.7m、かつ、屋外の情報が得られる窓を設置	4.0	0.33						
2 リフレッシュスペース	執務スペースの1%以上のリフレッシュスペース+自販機の設置	5.0	0.33						
3 内装計画		1.0	0.33						
1.3 維持管理		4.5	0.30						
1 維持管理に配慮した設計	内装材・外装材共に防汚性の高い建材を採用	5.0	0.50						
2 維持管理用機能の確保	各階トイレに清掃用具室、及び十分な広さの管理倉庫を設置	4.0	0.50						
2 耐用性・信頼性		2.8	0.30			2.8			
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50						
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80						
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20						
2.2 部品・部材の耐用年数		2.8	0.30						
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20						
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20						
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10						
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10						
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20						
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20						
2.4 信頼性		2.6	0.20						
1 空調・換気設備		3.0	0.20						
2 給排水・衛生設備		3.0	0.20						
3 電気設備		3.0	0.20						
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20						
5 通信・情報設備		1.0	0.20						

3 対応性・更新性			3.4	0.30	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高: 3.9m以上。	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	0.1 ≤ [壁長さ比率] < 0.3。	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.39	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.7
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.1
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI _m = 0.54	5.0	0.01	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.12	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEI _m] = 0.62	4.8	0.62	-	-	4.8
4 効率的運用			3.0	0.25	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.5
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		節水コマなどに加えて、省水型機器(節水型便器)を用いている。	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.6	0.60	-	-	3.6
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		パーク堆肥・壁面緑化、陶磁器質タイル: 玄関ポーチ・階段、ビニル系床材	5.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		仕上材下地にLGSを採用しており、躯体と仕上材が容易に分別可能	4.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.5	0.20	-	-	3.5
3.1 有害物質を含まない材料の使用		化学物質排出把握管理促進法の指定物質を使用しない建材の採用	4.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.3	0.70	-	-	
1	消火剤		1.0	0.33	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0、GWP=1の発泡剤を用いた断熱材を採用。	5.0	0.33	-	-	
3	冷媒	自然冷媒を採用	4.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率が、一般的な建物に対して78%。	3.8	0.33	-	-	3.8
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止		燃焼機器を使用していない。	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	駐車スペースの確保、前面道路渋滞緩和を考慮した車両出入口位置を	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			-	-	-	-	
1	騒音		-	-	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.67	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.33	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	「光害対策ガイドライン」チェックリストの一部を満たしている	4.0	0.70	-	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	